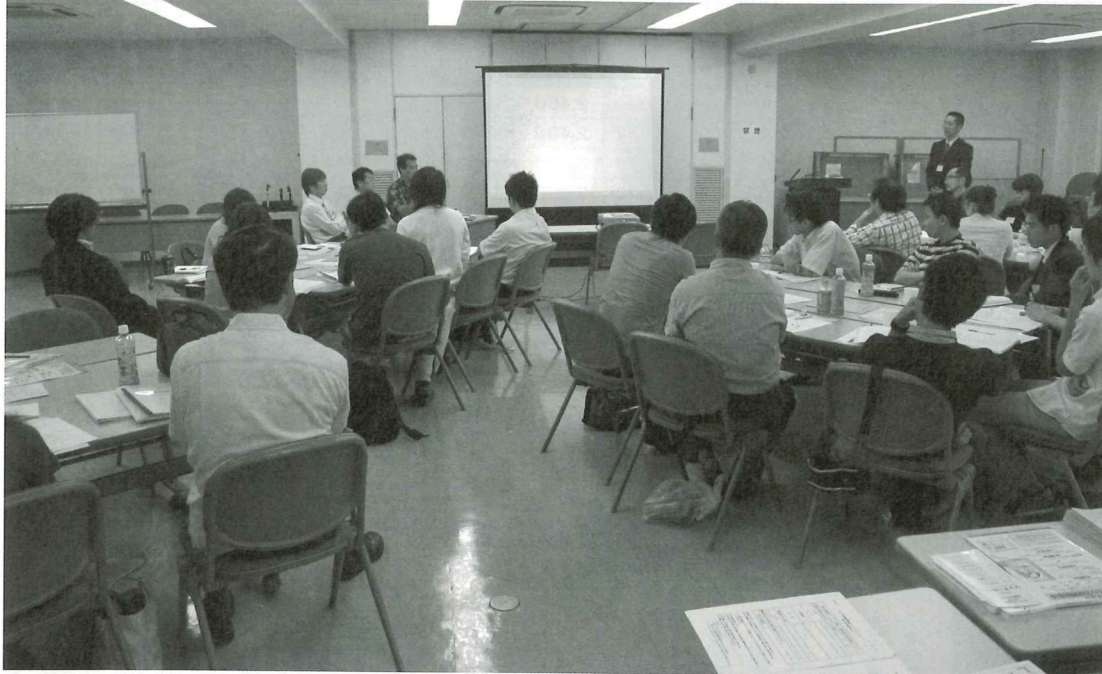


# ギャンブルリング問題 職種の垣根を越えて議論



講師の話を中心して聞く参加者たち



中村施設長



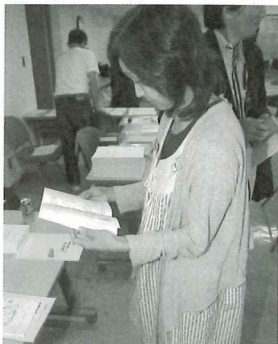
稲村氏



西村代表



真剣な表情で事例検討



会場ではワンダーポットが発行している体験談集などが展示、販売された

「ギャンブル依存問題相談機関のリカバリーサポート・ネットワーク（西村直之代表、以下RSN）」は8月27日、横浜市の「神奈川県司法書士会館」で「第2回援助職者・サポーター養成講座」で「事例から学ぶギャンブルリング問題への理解と対応」を開催した。

パチンコに限らず、広くギャンブルリング（金銭的リスクを伴い、賭ける行為）の問題を持つ人にかかわる援助者などを対象としたもの。精神科ソーシャルワーカー、女性センターや消費生活センターの相談員、司法書士、ホール関係者ら約30人が参加した。

精神科医であるRSNの西村代表、司法書士の稲村厚氏、ギャンブルリング問題からの回復を支援する施設「ワンダーポット（横浜市）」の中村努施設長による講義のほか、ギャンブルリング問題から回復した当事者本人、家族による体験談、参加者による事例検討などが行われた。

西村代表はギャンブルリング問題の援助のあり方などについて講義。「ギャンブルリング問題は金銭・借金問題、家族関係の問題、精神医学的問題など複数の問題と関連しやすい」ことを指摘し、援助の際は「単体のアプローチではなく、複数のアプローチ（医療・福祉・司法など）をとることが重要」とした。

また、稲村氏は多重債務について、「すぐに債務整理をしてもギャンブルリングは止まらない。債務整理はいつでも可能。重要なのは、問題は借金ではなく、ギャンブルリングであることを本人に理解してもらうこと」と説明。

ギャンブルリング問題からの回復者でもある中村施設長は「GA（ギャンブラーズ・アノニマス）当事者同士の相互援助グループ」を中途半端に案内するなどの支援は本人を追い詰めてしまうことがある」などと注意を促したほか、実際のプログラム風景などの写真を用いて同施設の紹介を行った。

事例検討は4つのグループに分かれて実施。計3つの事例について、どのような介入が適切かなどについて話し合った。初めは緊張していた参加者たちも、次第に打ち解け、職種の垣根を越えた活発な議論が展開された。

なお、第1回講座は6月に沖縄で開かれており、今年度はさらに福岡、名古屋、大阪などで開かれる。